

読書バリアフリー

3 ユニバーサルデザイン図書館、読み上げペン ほか

ユニバーサルデザイン図書館を見よう①
東京都立光明学園図書館(東京都世田谷区) 4

建物のバリアフリー／探しやすい本だな／いろいろなバリアフリー図書／
本のならべ方・見せ方の工夫／(職員さんに聞いてみよう) 相原 陽子さん・赤木 か
ん子さん

ユニバーサルデザイン図書館を見よう②
日野市立中央図書館(東京都日野市) 8

DAISY図書の制作／点字図書の制作／バリアフリー図書の貸し出し／目
の不自由な人に向けた活動／(職員さんに聞いてみよう) 中山 玲子さん

点字図書館ってどんなところ? 12

日本点字図書館とは?／どうやって貸し出ししているの?／いろいろなサー
ビス

インターネット上の図書館を見よう 14

サピエ図書館ってなに?／サピエ図書館を利用するには?／リアル図書館の
「りんごのたな」／国会図書館のサービスを利用しよう／デイジー子ども
ゆめ文庫

本を読みやすくするためのいろいろな道具 18

拡大読書器／音声読書器／読み上げペン／音声点字携帯情報端末／リー
ディングトラッカー／リーディングルーペ／書見台／DAISY録音・再生機
／スマホ・タブレットホルダー

言葉のバリアフリー 24

外国語訳された本／手話で読む本

バリアフリー図書と著作権 26

著作権ってなに?／バリアフリー図書に関する著作権法の規定／自由利用
マークってなに?

インタビュー
体の不自由な人・外国人と読書 28

外国人にとっては漢字が最大の難関 それでも本はとても大事なツール
グリスデイル・バリージョシュアさん／紙の本が大好き! でも、思い切って電
子書籍に切りかえた 中野 まこさん

さくいん 31

※本書の内容は原稿執筆時点で入手した情報にもとづいて編集されたもので、掲載されている書籍・製品・サー
ビスなどは、予告なく内容変更・終了する場合があります。

ユニバーサルデザイン図書館を見てみよう①

東京都立光明学園 図書館(東京都世田谷区)



すべての人が使いやすい
デザインのことを
「ユニバーサルデザイン」
というよ



光明学園は、東京都が運営する特別支援学校です。
1932年に前身となる学校が開校され、90年以上の歴史が
あります。小・中・高校が同じ敷地内にあり、児童・生徒
200人ほどが3棟の校舎で学んでいます。今の校舎は
2024年4月に使用が開始されました。

図書館は南棟の1階にあります。自然光が入り、明るく
広いホールのような空間には、5000冊近い本が置かれて
います。また、車いすでも通りやすいスロープや通路があ
るので、児童・生徒だけでなく保護者にも好評です。



玄関から段差のない、広い廊下がつづきます



解放感があって、はばの広いスロープ

探しやすい本だな

本だなは、3段と低くなっています。これは、
子どもたちでも本に手がとどくようにするた
めです。また、車いすの人が少しでも本だ
なに近づけるよう、一番下の段には本をならべ
ず、空けてあります。本は文学、理科、マンガ、
絵本と分野ごとにになっています。分野がひ
と目でわかるように、本だなと図書館マップ
に同じ分類シールがはられています。



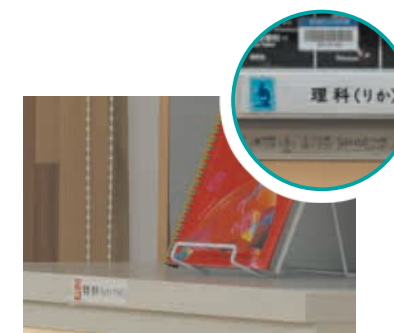
分類は、番号より
イラストのほうが
わかりやすいよね！

建物のバリアフリー

図書館は校舎の1階にあります。屋外から
玄関、ろうか、図書館まではずっと段差のな
いフラットな床で、車いすでもそのままス
ムーズに出入りできます。

また、図書館わきのスロープは壁にそって
ぐるりと回るようにつくられていて、坂もゆ
るやかになっています。車いすのすれちがい
もできるはばの広さで、2階
までつながっています。

図書館をながめながら、
上り下りできるんだ！

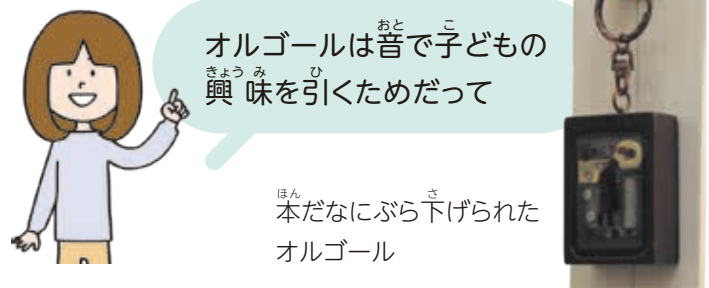


分類シールは、子どもたちがデザインを考えました

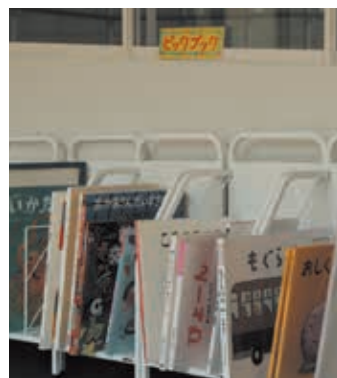
《 いろいろなバリアフリー図書 》

絵本は玄関からつづく廊下にも展示されています。表紙が見えるように壁にかかっている本、おもちゃと一緒にになっている本、とても大きなサイズの本などがたくさんあります。

また、ＬＬブックや音の出る絵本、さわって楽しむ点字絵本や布の絵本など、バリアフリー図書も置かれています。



絵本は小さい子どもでも取れるよう低い位置に



ふつうの本だ
なに入らない
大きな本も置
かれています

《 本のならべ方・見せ方の工夫 》



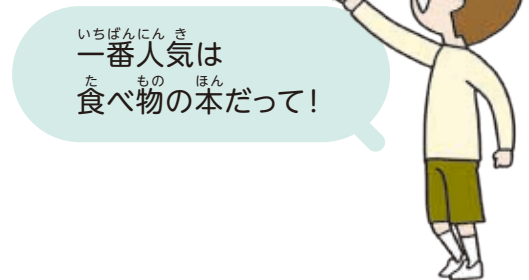
本はできるだけ表紙が見えるように置かれています

本だなの横に、置かれている本の分類を大きな文字で案内しています



人気のある分野の本をまん中に置いてだれも見やすいようにするなど、本だなの配置にも気を配っています。また、デザインのこった表紙を表に向けておくことも工夫のひとつです。

カワイイ、かっこいい、楽しいなど、好奇心を刺激する表紙が見えるようにすることで、新しい本と出あえるようにしています。



職員さんに聞いてみよう

東京都立光明学園 肢体不自由 教育部門

小学部 主任教諭 相原 陽子さん (写真 左)

外部専門員 司書 赤木 かん子さん (写真 右)



Q. この仕事で一番たいへんなことはなんですか？

赤木さん 3つある校舎の建てかえ工事が終わるまでは、とても大変でした。まず図書館にする部屋がなくなり、ろうかに本をならべていました。車いすやストレッチャーがすれちがえる空間が必要ですし、どこにどの本をならべれば使いやすいか、ずっと悩んでいました。そして校舎が1つ完成したらそこへ引っ越し、2つ目が完成したらまた引っ越しして、計4回も引っ越ししました。

相原さん そのかいあって、いまはたくさんの児童・生徒たちが毎日のように来てくれています。大人もはじめてのときは「わあ～！」とおどろきの声をあげるほどで、子どもたちの感動はその倍以上だったと思います。だからこそ、図書館という空間も、本もずっと大切に使いしていきたいと思っています。

Q. これからどんな図書館にしたいですか？

相原さん この図書館が「光明ライブラリー」とよばれ、児童・生徒に親しまれる存在にしたいですね。さまざまな授業で図書館の本も空間も活用されて、ワクワクする「学びの場所」となってほしいと思います。また、図書に親しむイベント（お話し会やPOP コンテストなど）を開催したいと考えています。

赤木さん 車いすやストレッチャーでは曲がりづらい角の対策と、こわれた本の修繕が必要。そのためには先生たちと連携して、いっしょに考えていこうと思います。この図書館は、まだまだ進化中です！



新しく図書館に入れる本について話し合う赤木さんと相原さん